

事業の背景・目的

環境省とJAZAとの間で締結された「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づいて国の「ライチョウ保護増殖事業」に参画し、当園のライチョウ保全プロジェクト事業を進めている。生息域外保全の取り組みとして、試験飼育個体群を必要最低限の一定程度の範囲内の羽数で飼育管理しながら、野生復帰を見据えた飼育・繁殖技術の確立を目指す。



野生のライチョウ

事業の内容

ライチョウの飼育下繁殖に取り組み、その飼育繁殖技術確立し、生息域外保全や野生復帰につなげ、種の保存を図ることを目標としている。

事業① 飼育下繁殖の実施及び技術確立

- ・ライチョウの飼育下繁殖を実施しながら、科学的知見を集積し、飼育下繁殖技術確立させる。さらに、野生復帰を見据えた継続的な知見・技術蓄積（ウイルス・細菌対策を含む）に努め、ライチョウの飼育技術確立と開発を推進する。
- また、試験飼育個体群、保険個体群の確立と維持を目指す。

事業② 普及啓発

- ・繁殖に供しない雄1羽と雌1羽の展示を通じて、ライチョウの現状や保護増殖の取り組みなどについて効果的な普及啓発活動を推進する。また、飼育下繁殖の取り組みをウェブや園内掲示等で発信する。



ライチョウの生体展示

得られた成果

令和2年度は、野生復帰に適したライチョウの育成を目指し2羽の母鳥で自然繁殖に取り組んだ。1羽の母鳥は、9個を抱卵した結果、7月3日に3羽が孵化した。順調にヒナを育てていたが3羽のヒナは相次いで病気で死亡した。もう1羽の母鳥は、10個を抱卵していたが、途中で抱卵を放棄したため、人工孵卵器を使う方法に変更したところ8羽が孵化した。これらは人工育雛で育てており、1羽が死亡したが、その他の7羽は現在も順調に成育している。死亡したヒナの原因については、可能な限り解明し、他園とも比較しながら、母鳥が無事にヒナを育てられる環境を整え、来年の繁殖に取り組んでいきたいと考えている。

また、飼育下繁殖の取り組みについては、定期的に園内でラベルの掲示や動画配信を行った。またSNSやホームページおよびフェイスブック、ツイッターなどを用いて発信した。さらに、繁殖に供しない雄1羽と雌1羽の展示を通じて、ライチョウの現状や保護増殖の取り組み、雄と雌の違いなどについて効果的な普及啓発活動を実施した。さらに、動物ガイドや各種団体の講演などで、ライチョウの生態や保全の取り組みについて解説を行うなど普及啓発活動を推進した。